

天然痘、エムボックス、牛痘、天然痘ワクチン接種後のワクシニアウイルスの増殖による合併症に対する治療薬テボックスカプセル 200mg (Tecovirimat) 製造販売承認を申請

報道関係各位

2024年4月11日

日本バイオテクノファーマ株式会社

日本バイオテクノファーマ株式会社（本社：東京都中央区 代表取締役社長：篠原直樹）は天然痘、エムボックス、牛痘、天然痘ワクチン接種後のワクシニアウイルスの増殖による合併症に対する治療薬”テボックスカプセル 200mg”（Tecovirimat）の製造販売承認申請を厚生労働省に行いました。

エムボックスは 2022 年から欧米を中心に流行しており、2023 年 10 月 29 日時点で 9 万人以上の感染例が報告されています。国内では、2022 年 7 月 25 日に、国内 1 例目の患者が報告され、2023 年以降も患者の発生が続いており、243 例（前週比+1 名）の症例が確認されています（2024 年 4 月 5 日更新：厚生労働省）。

また、天然痘（痘そう）に関しては、既に世界保健機関(WHO)により撲滅が宣言されていますが、日本では 1976 年に定期種痘が中止されたことにより、現在では 50 代未満の多くの方が天然痘に対して免疫を持っておらず、今後、生物テロ等による天然痘ウイルスの再出現によるアウトブレイクが発生した場合には、抗ウイルス療法を含む医学的対策が極めて重要です。

天然痘ウイルスは、自身では増殖できず、ヒトの細胞を利用して増殖します。VP37 エンベロープラッピングタンパク質は、細胞内で合成された成熟なウイルス(IMV)から、新たなウイルス(IEV)を作り出す働きを持っています。

テボックスカプセル 200mg は、この働きを阻害し、エンベロープのウイルスが複製されるのを防ぎます。

今後のエムボックスの感染拡大や天然痘による生物テロ等の懸念に対して、テボックスカプセル 200mg を用いた治療体制を行うことのお手伝い出来ることを嬉しく思います。また今後も日本の医療に貢献できるよう日々精進していきます。

(日本バイオテクノファーマ：<https://www.japanbiotechnopharma.com/>)



Japan Biotechno Pharma Co.,Ltd 2-6-13 Nihonbashi Honcho,Chuo-ku, Tokyo Japan